

児童福祉施設に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 子育て世代包括支援センター（母子健康包括支援センター）は、障害児とその保護者のみを対象として、子育てに関する相談に応じ、必要に応じ助言を行う施設である。
2. 助産施設は、特定妊婦を入院させて、助産を受けさせることを目的とした施設で、助産師等病院に必要な職員のほか、保育士の配置も義務とされている。
3. 児童自立支援施設は、児童遊園、児童館等児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とした施設である。
4. 母子生活支援施設に入所した児童については、都道府県等は保護者から申込みがあり、かつ、必要があると認めるときは、満20歳に達するまで保護することができる。
5. 障害児入所施設には、感染症や非常災害の発生時において利用者に対する支援の提供を継続的に実施するための「業務継続計画」の策定は、義務付けられていない。

次のうち、児童期の発達に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 児童期には、ピアグループと呼ばれる排他的でない親密な仲間集団が形成され、その後ギャンググループへと変化していく。
2. 児童期には、友人選択の理由は行動や外的なものから人格などの内面的なものへと変化していく。
3. ピアジェによれば、7、8歳以降に他律的道德性の段階に入っていく。
4. セルマンによれば、児童期は、それぞれの人の視点が多次元的あるいは深いレベルで存在していることを相互に理解する段階である。
5. 小学校に入る時期になると「話しことば」が消失し、「書きことば」の世界に急に転換する。